



- 空間的に散らばって、耐震上問題のある建物が大きな被害を受けている（倒壊建物は、強風および延焼防止対策の為に瓦屋根に土壁した建物や、裸木造の古い建物であることが多く、道路面間口方向の開口部が大きいのが特徴）



↑ 瓦の下に土を盛ってあり、頭が重い建物。    ↑ 右写真の建物の屋根部分



↑ 多量の土が使われている



↑ 道路面に壁がない建物の被害



↑ ガレージのある建物（上）解体中の建物（下）

- ・ 建物が道路側に倒れ一部の建物は道路および線路の通行に障害を生じている



↑倒壊した家屋が道路面を塞ぐ



↑道路側に倒壊した商店(上) 倒壊した建物が塀を越える(下)



↑線路付近まで倒れた家(東柏崎駅付近)



↑左と同じ地点の線路の様子

- ・ 東本町のアーケード商店街の被害が甚大（再建の過程で、まちづくりの視点でまとまった調整を行うことが必要）



↑ 西側端。アーケードが傾き破損している



↑ 間口が全てシャッター（開口部）の店の被害



↑ 被害の大きい部分



↑ 1階部が潰れた建物



↑ 商店街の通りの土地を再分化して分譲

←商店街の通りは、間口に比べ奥行き長い建物が多い。そのような建物を取り壊して、左の写真のように細分化し位置指定道路を入れて複数の建物を建設している事例もある。

被害が大きかったこの地区で、全壊等の建物を取り壊された後、土地が細分化され開発される可能性もある。

- ・ 液状化により道路および歩道に、ふりくが生じている（新潟県中越地震に顕著だったマンホールの盛り上がりや、配管のある道路面の落ち込みは比較的少ない）



↑ 歩道の被害



↑ 液状化により歩道の被害（上）再開発地域も被害大（下）



↑ 車両が脱線した柏崎駅前。マンホールから液状化による砂が噴出した

- ・ 大谷石等の鉄筋の入っていない石垣の倒壊が目立つ



↑部分的に倒壊したブロック塀



↑大家石の塀の被害。住宅の門が倒壊



↑上の写真と同箇所。鉄筋は入っていない

【柏崎市中田（11号線と73号線の交差する周辺）】

沿いの液状化による被害が顕著な集落

- ・ 液状化による、建物の不動沈下による被害が顕著



↑ 鯖石川



↑ 地図（左が北の方向を示す）

○液状化の状況



↑ 液状化で砂利の上に砂



↑ 左写真隣接建物の床にもヒビ



↑ 裏の畑も砂に覆われた



↑ コンクリート面の液状化



↑ 道路下配管部の陥没

村社日吉神社



↑ 拝殿入り口も歪んでいる



↑ 一番奥の本殿部分がちぎれて倒れた



↑ 拝殿部床下



↑ 本殿柱端部 (ホゾが短い)



↑ 奥の木製鳥居は無事だが石の鳥居は倒壊

○被災地区の様子

【柏崎市街地】（都市部の高齢者等の災害弱者対策が今後の課題）

- ・ 自主的（町会等）な避難所にも、自衛隊などの支援がなされていた



- ・ 敷地内の倉庫や1階のガレージなどで 過ごす人も多く見受けられた



- ・ 柏崎市役所内。「防災・原子力課」



- ・ 応急危険度判定と罹災証明



↑一部応急危険度判定が重複されて実施されている地域も（初回は当日実施）



↑上が罹災証明用の「調査済証（後日結果は公表）」、下が応急危険度判定の「調査済」。（似ているが意味は異なる）

- ・ 避難所（柏崎小学校）



建物の外部では生命保険会社が支援するテントがあった（写真で青いテント）。

- ・ 潮風公園（自衛隊支援のベース地）



・ まちの様子



←新潟県中越地震の教訓が活かされ、また道路の通行止め等が少ないため、スーパーマーケットやコンビニエンスストア等でも物資は充足しているようである。  
 雑貨屋では、家の片付けに必要な用品等も販売。



↑市民プラザでも炊き出しを実施    ↑FMピッカラが生活情報等を放送し続けている



↑片付けが始まりゴミが発生して集められている

↑トイレ用の給水車

・ 仮設住宅建築予定地（地縄張りが開始）



【柏崎市中田】



↑北鯖石小学校（避難所）



↑災害避難所は自然災害だけでなく原子力事故時の避難所としても対応する



↑小学校公社裏（写真奥）に自衛隊による「練馬の湯」が設置（派遣部隊の所属地に由来）



↑給水車

【刈羽村】（西部に原子力発電所）

- ・ 避難所は、被災者にマットレスが配布される、一部に冷房がきく部屋がある等、配慮がなされている。昼間の避難所は高齢者がほとんどで、夜になると滞在者が増加する。



↑ 避難所となった体育館



↑夜になると滞在者が増加。他に空調施設のある付属部屋も。



↑ 給水所



↑ 山古志村民の炊き出しボランティア

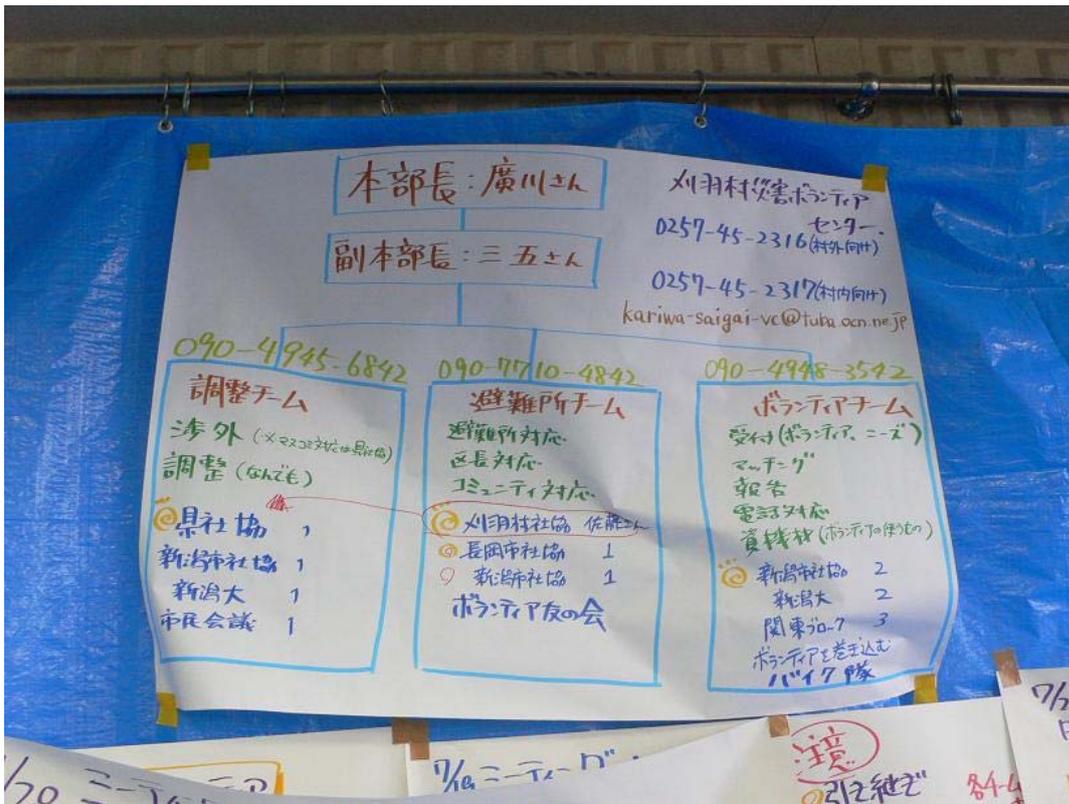
- ・ ボランティアセンターも機能し始めており（阪神高齢者・障害者支援ネットワークの黒田氏や中越復興市民会議の稲垣氏等も参加）、ボランティアの受け入れも順調に進み始めている。刈羽村で本日ボランティアを希望した人は全員仕事を振り分けた（稲垣氏談。7/21は柏崎約300人、刈羽村約250名の参加）。石鹼を持って住宅をまわり、ボランティアニーズを把握する活動も開始。



↑ ボランティアセンター内部



↑ ミーティングの内容を掲示



↑ ボランティアセンターの組織図



↑ それぞれの集落の状況等を地図に書き込み、壁に掲示。